

久万町誌

補訂版続編

久万町誌

補訂版続編



久万町誌

補訂版続編



町章



久万町花「ささゆり」
S 47. 6. 23



久万町木「杉」
S 47. 6. 23

町民憲章

- 1. 郷土を愛し、**住みよいまち**をつくり
ます。
- 1. 生産にはげみ、節約につとめて**豊かなまち**をつくり
ます。
- 1. 健康の増進をはかり、**活気あふれる
まち**をつくり
ます。
- 1. 若い力を育て、**伸びゆくまち**をつく
ります。
- 1. きまりを守り、**明るいまち**をつくり
ます。

*** 上浮穴郡久万町
S 50.12.19

久万町歌

二峰えだつ 石籠山の山脈に
 雲は湧き 峰をささゆりは
 三坂の大観 瀬の海ひらけ
 森林のみどり 山峡に深く
 山の丸山にみちみち 心は清し
 明るく繁け 久万の町

三つらぬけさき土横成の国道に
 霧をとり霧晴れゆけは
 岩屋の奇岩紅葉を映え
 仰西の偉業 稲穂波うち
 郷みのり所はゆたかに希望は高し
 壁びて 学え 久万の町

S 43. 11. 3



町長 玉水 寿清



教育長 西田 友三



助役 水谷 宏之



副議長 瀧野 志



議長 大野 玉雄

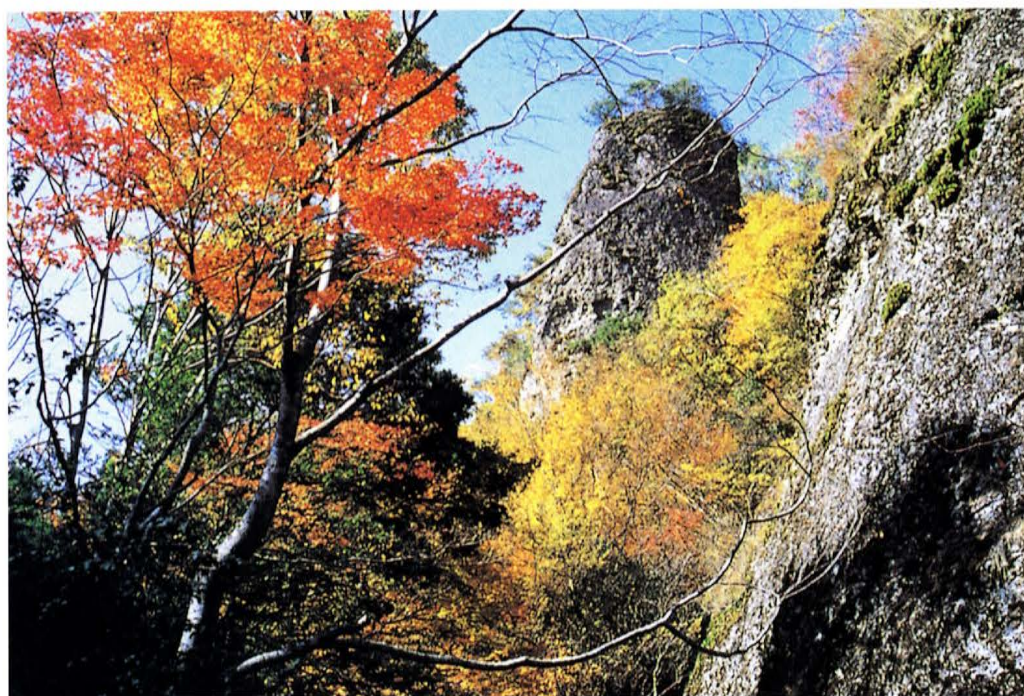
久方の四季
春



夏



秋



冬





久万中学校



久万中学校体育館



畑野川小学校



明神小学校



直瀬小学校



父二峰小学校



町立久万美術館



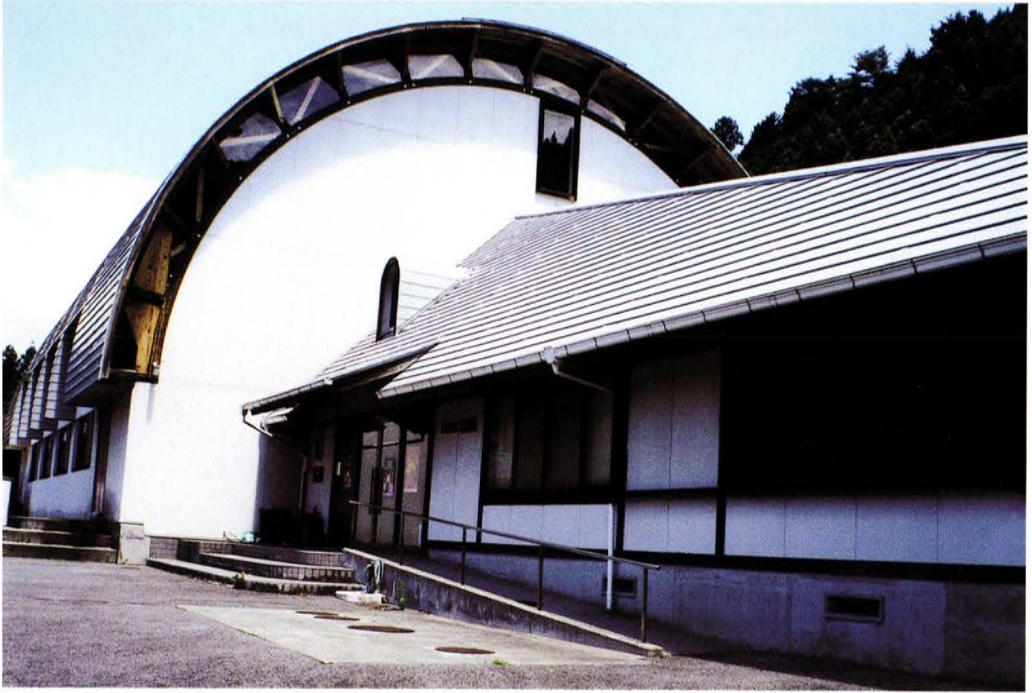
物産館みどり



久万高原駅やまなみ



久万町立図書館



下直瀬ふれあい館



落合ふれあい館

大地の恵み



ピーマン選果機



トマト選果機

交流(ふれあい)



久万山御用木まつり



久万町長杯ラグビーフットボール大会

発刊にあたって

久万町長 玉水寿清



昭和三十四年三月、久万、川瀬、父二峰の一町二村と槇谷が合併し、新久万町が発足して以来、四十五年四ヶ月の歳月が経過した。その間、町民と行政が一体となって農山村の特色を生かし個性豊かな町政の進展と町民の福祉向上を目指してまちづくりを進めてきたが、平成の大合併によって愈々十六年八月一日には郡内の面河、美川、柳谷と一町三村による合併が進み、多くの成果と絶ち難い思い出を残して久万町の歴史に幕を降ろし閉町することになった。

久万町政の四十五年余りに亘る輝かしい歴史は、まちづくりに崇高な理念と情熱を持って意欲的に取り組まれた初代日野町長、二代河野町長の強力なご指導力と舵取り、歴代の議会議員のご理解や関係機関団体や町民のご支援ご協力によって幾多の困難や課題解決に向けての血の出るようなご努力によるものであり、県内外の市町村長からも高く評価されるに至っている。

町村合併は、地方分権の推進、少子高齢化への対応、多様化する住民ニーズへの対応、住民の生活圏の広域化への対応、行財政基盤の強化や効率化を図る他、基礎的自治体の基盤である地域に生きる住民の力を地域自治にどのように活かしていくかが最も重要なことである。

久万町では、合併十周年と明治百年の記念すべき昭和四十三年に、我が町の歴史、政治経済、福祉、教育文化など先輩方が築いてきた町の歩みをまとめて「久万町誌」を発刊した。その後、「二十年誌」を昭和五十三年に、合併三十年の記念事業として写真で綴る「三十年誌」と「久万町誌」の増補改訂版を昭和のまとめとして発刊してきた。

このたび、閉町を迎えるにあたり、久万町誌補訂版として「自然と共生する高原文化のまちづくり」の取り組みを振り返り発刊す

ることになった。

振り返ると昭和六十三年には地元有志から建築材の寄附を受け、畑野川小学校校舎を木造で新築したことに始まり、木の良さを活かして公共施設の木造化を積極的に推進し、平成十六年まで総事業費約六十億円を投じて特色あるまちづくりの姿を残してきた。また、土地基盤整備の成果と気象条件を活かしたトマト、ピーマンに代表される夏秋野菜の主産地形成を実現した。更に快適な生活環境を確保するために上下水道も整備中であり、三坂トンネルも順調に掘削工事が進んでいることから一日も早い完成が待望されており、将来への魅力あるまちづくりへの期待は高まっていると言える。

平成の合併を機に、郷土の長い歴史を振り返り、多くの先輩たちのまちづくりへの熱い思いで努力を重ねられたことに深甚なる敬意と感謝をささげたい。

最後に、久万町誌補訂版発刊にあたり、大変お忙しい中、しかも短期間で立派に仕上げられた編集委員各位のご苦勞に対し心から厚くお礼を申し上げます。

この久万町誌がふるさと久万町の発展に尽くされた多くの人たちの事績を知るよすがとなり、今後を生きる人々の心の糧になることを願って発刊のことばとする。

発刊にあたって

久万町議会議長 大野 玉雄



新久万町が昭和三十四年三月、町村合併により発足して以来、四六年を迎えましたが、振り返ってみますと激動と飛躍の時代であったと思います。

この間「自然と共生する高原文化の町づくり」を目指して、各分野にわたって施策を展開し大きな成果をあげてまいりました。高度経済成長期には、かつてなかった程の行政需要が増大し、社会資本の整備、産業の振興、社会福祉、教育文化と急速に進展いたしました。

しかし、その後、高度経済社会の歪みとともに国際化の波の中で我が国の社会経済情勢は極めて複雑多様化をし、地方の財政事情は深刻な状況となってまいりました。今、地方自治は新たな転換期を迎えております。すなわち、少子・高齢化の進行と、情報化、国際化等のめざましい進展は地域社会に大きな変貌をもたらす一方、地方分権が強力に推進されるとともに、町村合併が急速に促進され、久万町においても平成十六年八月一日には、四か町村が合併し新生「久万高原町」が誕生する運びとなりました。

私達は、これまでにない新しい方向を模索しなければならない時に遭遇しております。今後は、先人達が築いてくれた素晴らしい歴史と、その足跡を振り返りながら、地域の一層の充実発展を期するため、行政機関と地域住民が手を携えて互いの英知と創意を結集し、各分野における課題に全力を尽くさなければならないと思っております。幸い久万高原は自然豊かな地域であり、この自然を生かした潤いと安らぎのある町を目指して町民の皆様と共に魅力ある町づくりに努めて参ります。

本書発刊にあたり、多大のご協力を賜りました関係各位に心から敬意を表しますとともに、新久万高原町誕生に向けて更なる発展をご祈念申し上げます、ご挨拶と致します。

